

特別講演／座談会

第24回 道路技術シンポジウム

舗装と社会の関わり
ー 舗装が目指すべき未来 ー

SURF2026

本シンポジウムは SURF2026（第10回路面性状に関する国際シンポジウム）のプレセッションとして開催されます。

日時

2026年11月9日(月)
12:45～16:30

場所

コングレスクエア羽田 ホール

大田区羽田空港一丁目1番4号
羽田イノベーションシティ ゾーンJ主催：一般社団法人 日本道路建設業協会
SURF2026 実行委員会

舗装と社会の関わり – 舗装が目指すべき未来 –

近年、社会インフラを取り巻く環境は大きな変化の局面を迎えている。舗装構造物の老朽化が全国で進行する一方、気候変動の影響による猛暑・豪雨・凍結融解の激化、災害リスクの増大、さらに人手不足や財政制約といった社会課題が重なり、舗装分野には従来以上に高度で柔軟な対応が求められている。また、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みが加速する中で、リサイクル材の活用や低炭素型材料の開発、LCA に基づく環境評価など、環境配慮型舗装への期待も高まっている。

本シンポジウムでは、これらの課題と可能性を踏まえ、「舗装が目指すべき未来」を多角的に議論する。舗装の技術基準の改定も予定されており、舗装の長寿命化技術、維持管理の最適化、レジリエンス向上に関する最新の研究成果や実務の取り組みを共有し、持続可能な舗装インフラのあり方を探る。また、IoT センサーや画像解析、AI による損傷予測や管理手法など、デジタル技術の導入によるスマート維持管理の展望と課題について考察する。さらに、道路空間を交通基盤としてのみならず、市民が快適に利用できる公共空間として再評価する観点も含めつつ、安全性、快適性の向上など、路面性状（性能）の高度化による公共空間の質を高める取り組みについても議論を広げる。

なお本シンポジウムは翌日から開催される SURF2026（第10回路面性状に関する国際シンポジウム）のプレセッションとして PIARC 委員にも登壇いただき路面性状に関する世界情勢について情報提供を受けつつ、次世代の舗装技術に求められる価値を再整理し、その実現に向けた方向性を共有する場とする。

記

日 時：令和 8 年 11 月 9 日（月）

場 所：コンgresクエア羽田 ホール 1・2（大田区羽田空港一丁目 1 番 4 号羽田イノベーションシティ ゾーン J）
オンライン配信（会場での講演を同時配信します）

主 催：一般社団法人 日本道路建設業協会

後 援：

協 賛：公益社団法人 日本道路協会

来賓挨拶：PIARC 技術委員会 4.1「舗装」委員長

Margo BRIESSINCK

特別講演：「舗装と社会の関わり」

北海道科学大学 工学部 都市環境学科 教授

亀山 修一

パネルディスカッション：「舗装が目指すべき未来」

座 長 国立研究開発法人 土木研究所 道路技術研究グループ 上席研究員（舗装）

渡邊 一弘

パネリスト 国土交通省 道路局 国道・技術課 道路メンテナンス企画室長

糸野真一郎

室蘭工業大学大学院 もの創造系領域 土木工学ユニット 准教授

浅田 拓海

株式会社高速道路総合技術研究所 道路研究部 舗装研究担当部長

熊田 一彦

公益社団法人 日本道路協会「舗装未来検討会」委員

永塚 竜也

一般社団法人 日本道路建設業協会 技術委員会 委員

東本 崇

定 員：約 200 名（会場）

参 加 費：無料

申込方法：日本道路建設業協会ホームページ（<https://www.dohkenkyo.or.jp>）よりお申し込み下さい。

申込期間：9 月 15 日（火）～ 10 月 29 日（木） 定員になり次第締め切ります。

・本シンポジウムは継続教育（CPDS）プログラムに認定されています（3 ユニット）。

必要な方は申込時に CPDS 番号をお知らせ下さい。CPDS 学習履歴申請は事務局が行います。

なお、シンポジウム当日は、CPDS 技術者データ（QR コード）等を持参の上ご来場下さい。

・申し込まれた方には「参加者カード」を送付します。

※オンライン配信にて受講される方につきましては、受講状況を確認した後、受講証明書を発行することができます。

問合せ先：一般社団法人 日本道路建設業協会 広報・技術部 加藤 E-mail：gijutsubu@dohkenkyo.or.jp

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-12-7 八丁堀トーセイビルⅢ 8 F TEL：03-3537-3056